

■井上(幻庵)因碩 “囲碁四哲”のなかで、時運に恵まれなかった悲劇の棋士。

いのうえいんせき

古事記伝・1798= 生。実名・出生地とも不明。

アメリカ船来航始1803= 5歳：\_井上家の外家で“鬼因淑”の異名を持つ服部因淑に入門して、服部因徹と称し、

アハ船狼藉・1807= 9歳：

浮世風呂・1809=11歳：服部家の養嗣子となり、立徹と改名。

高田屋拿捕・1812=14歳：\*初段となり、のちに最大の超えるべき目標となる4段葛野丈和と初対局。以後、頻繁に対局するが、  
丈和の芸域に近づくに従い、名人碁所の奪い合いが射程に入ってきたため、因淑の思惑もあって、

伊能測量終・1816=18歳：この年以降、ほとんど無くなる。  
\_棋格は五段に進み、実力は七段といわれるほどになるとともに、

水野忠成老中1818=20歳：  
群書類従完結1819=21歳：\*12歳から18歳までの自身の98局に自評をつけた前例の無い「奕図」を刊行。9世井上(因砂)因碩の跡目に乞われて宗家に入り、井上安節と改名。因淑について御城碁に初出仕し、“一生のできばえ”を示した本因坊元丈に敗れる。丈和も初出仕し、名局を残す。以後も、ここ一番では実力を発揮できないことが多く、

膝栗毛終・1822=24歳：\_丈和と前年から打ち継いだ対局が最後となる。

シボウ朴鳴滝塾1824=26歳：\_9世井上因碩が隠居し、10世井上因碩となる(のち元祖中村道石を1世としたため、11世)。

異国船打払令1825=27歳：

日本外史・1827=29歳：この年、丈和が元丈の跡を継いで、12世本因坊となる。

シボウ朴事件・1828=30歳：本因坊丈和と唯一の打掛局。この年、8段準名人に昇った丈和が積極的に名人碁所就位運動を始め、知得仙知を騙して、因碩を8段準名人昇進させ、因碩には6年後譲位条件に丈和推薦の口上書を書かせる。

シボウ朴追放・1829=31歳：争碁で決着を願い出るも、口上書が障害となって長老裁定に持込まれ、3年後争碁の証書を交わすが、

富嶽三十六景1831=33歳：突然、丈和が名人碁所を拝命。

以後、因淑・知得らと執拗に失脚の機会を覗い、碁界全体を巻き込む暗闘劇“天保の内訌”となって行く。

高島砲術・1834=36歳：

滑稽+人情本 1835=37歳：\*この年まで御城碁を11局務めて、致仕。松平家の碁会に丈和を引き出すことに成功するが、將軍指南役でもある丈和との直接対局を憚り、愛弟子因徹を差し向けるも、返り討ちに会って吐血し、まもなく死去。

大塩平八郎乱1837=39歳：

蚕社の獄・1839=41歳：\_名人丈和が引退すると、

勸進帳初演・1840=42歳：\_名人碁所を願い出るが、直ちに本因坊丈策が異議を申し立て、跡目秀和と争碁四番をすることとなり、第局で2度吐血した上敗れ、出願を取り下げる。

一  
天保改革弾圧1842=44歳：\_磯田助一主催の碁会で秀和と対局する機会を得るも敗れ、さらに御城碁に再出仕して、お好み対局してまた敗れたため、遂に断念。

順天堂始・1843=45歳：

天保改革終・1844=46歳：丈和の実子水谷順策を跡目に迎え入れ、

阿部正弘首座1845=47歳：

孝明天皇・1846=48歳：大坂で上洛途中の秀和と対局、

・・・・・・1848=50歳：\_隠居して幻庵と号し、順策が12世因碩となるが、

国定忠治疎・1850=52歳：\_12世因碩が発狂し、家元筋服部正徹が修業の旅に出ていたことから、やむを得ず旗本近習の松本錦四郎を13世に立てるに至って、己の悲運に耐え切れず、清国渡航を企て、日本と決別する覚悟を示すように、

万次郎帰国・1852=54歳：

ペリー来航・1853=55歳：\*「囲碁妙伝」を刊行後、井上宗家に入った時からの門人を連れて、江戸を立ち、長崎に向かう。

開国開港・1854=56歳：\_舟遊びと称して船を雇い、船頭を脅して大陸に向かおうとして、暴風雨に遭い、命からがら九州に漂着、

\_九州一の打ち手蓮香雄助に、自らの人生を冗談めかして語るなどして、

安政の大獄・1859=61歳：\_没した。